

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 大慈会
施設名	たつのこのはら保育園
報告者（役職）	石丸 慎介（園長）
住所・連絡先	〒216-0005
	神奈川県 川崎市 宮前区 土橋4-7-1
	☎ 044-922-9200 E-mail tatunokonohara@daijikai.com

○タイトル（保育計画）

保育の質を高めるために

○主な助成備品

移動式三角鉄棒、パラバルーン、砂場収納庫、屋外掲示板・壁面式、ダブルスライダー、アドベンチャージム、軽量ライトマット・巧技台Bセット

各年齢児に対して遊具や用具を使い、保育の質が向上し、子どもたちの体の成長につながり、それに伴う心の成長が子どもたちの自信や他者との立脚点になり、生きる力につながられることを目指しました。

・移動式三角鉄棒

（ねらい）

鉄棒にぶら下がったり、前回り、逆上がりなどの鉄棒遊びを通して園児の懸垂力、支持力、平衡感覚、バランス感覚などの運動遊びを好きになってもらえる環境を作る。

（具体的な実施内容）

運動指導の時間に鉄棒の持ち手や、姿勢、体を支える、筋肉の入れ方などを指導することができ、思いのままに体を動かし、園児の平衡感覚や支持力、懸垂力の向上を図る。また、園庭に常時、出しておくことで園庭自由遊び中に、やりたいときにいつでも鉄棒にチャレンジすることができる環境をつくった。子どもたちの運動遊びで鉄棒を取り入れることができるようになったことで、少し難しい課題についてチャレンジする気持ちを育てることができ、また鉄棒が得意な子が出来ない子に教えるなどの姿が見られ、『できた力』が『できる力』に代わっていく発展する姿も見ることができた。

（今後の課題と展望）

運動能力の向上に伴い、子どもたちが、より自分の思いのままに体を動かすことができ、体を動かすこと、出来るようになることが楽しいという向上心と共に、怪我をしない身体づくり、心身の健康につなげ、他者とのかかわりの中でたくましく、生きる力が向上することを望みます。



・パラバルーン

(ねらい)

集団活動を行う際に、パラバルーンで音楽に合わせて気持ちと動きを一つにすることで互いの気持ちを思いやり、集団活動の楽しみを学ぶきっかけをつくる。

(具体的な実施内容)

運動会の演目で、3歳児の競技として取り入れる。友だちを求めるようになる時期になり、友だちと一緒に協力して行う活動として取り入れる。大きなバルーンをみんなの力で大きくしたり、膨らませたりして食べ物に見立てたり、洗濯物に見立てたり、メリーゴーランドに見立てたり、友だちとイメージの共有もでき、楽しくみんなの中の自分を少し意識することができた。音楽に合わせてリズムよく、体を動かすことでバルーンの形や動きが代わっている姿を見て心地よく感じている姿もあり、ひとりではできない楽しさというものを感じているようだった。

(今後の課題と展望)

これからは、4歳児、5歳児も活動の中で使用して、音楽に合わせて行う動きをグループで子どもたちに考えてもらい、グループごとに発表するなどして考える力や、意見を出し合いながら自己を調整する力などを育て、一体感を感じることができるように取り入れていく。また乳児(0、1、2歳児)や子育て支援においても、バルーンの下で天井が上下する中で心が動き、楽しいと思えるような地域子育て支援活動にも取り入れていくことを想定している。



・砂場収納庫

(ねらい)

園庭や砂場で使う遊具を収納し、子どもたちが遊びこみたいときに自由に遊具の出し入れを行え、遊びを想像し、友だちとイメージを共有しながらどんどん広げられるような様々な素材が揃えられる環境にする。

(具体的な実施内容)

中庭園庭に設置をし、園庭遊びの際に使用する砂場道具やボールなどの遊具の整理整頓、保管の場所として使用している。園児に物を大切に扱うことや使ったものは元の場所に戻す、次に使う人のことを考えるなど整理整頓やお片付けを通して、人の事を思いやる気持ちや物に対する愛着などの気持ちが芽生えるよう活用している。また、使用する遊具の置き場所が明確になることで、「この遊びがしたい」という意欲が表出した時にすぐに遊具の場所が分かり、遊びの広がりがみられている。

(今後の課題と展望)

子どもたちの遊びの広がりに合わせ、遊具が増えてきているため、収納庫内の遊具の配置や遊具の選定などを行うようにしている。その中で、子どもたちが戸惑うことなく整理整頓がしやすいよう環境設定をすることでねらいに則した成長に繋がられるようにしていく必要があると感じている。

・屋外掲示板、壁面式

(ねらい)

掲示板に子育て支援情報や保育園の行事活動内容などを掲示して保育園活動を地域に知らせ理解して頂く。また地域の子育て中の親子を対象とした活動を広報し、イベントや情報提供を行い保育園が地域の懸け橋となるような信頼関係とコミュニティーづくりを行えるようにする。

(具体的な実施内容)

屋外掲示板に子育て支援情報や保育園の行事活動内容、イベントのお知らせなど掲示をすることで、地域の子育て世代はもちろんのこと、近隣住民に対して保育園のことを知ってもらい、地域と園とが繋がるきっかけとして活用することが出来ている。地域との共存は、保育園を運営するにあたり大きな課題となる中で、掲示板が大きな役割を果たしており、より身近に園を感じてもらうことができています。

(今後の課題と展望)

保育園をより身近に感じてもらうとともに、地域支援の拠点として活動ができるように掲示板を活用していきたい。地域とのコミュニケーションづくりや信頼関係がより深まるよう、その中で掲示内容や掲示方法などを検討していくとともに、地域支援活動に注力していきたいと考えています。



・ダブルスライダーとアドベンチャージム

(ねらい)

乳児（0歳児、1歳児、2歳児、地域、一時保育）がスピード感や滑る時の基本姿勢や全身を使って安全に遊べる環境を屋上園庭に作り、心身の発育を促す。

(具体的な実施内容)

屋上園庭に設置をし、乳児クラスや子育て支援センターに遊びに来ている子どもたちの戸外活動の遊具として活用をしている。事故予防のため、遊具周辺には人工芝を敷き、安全に遊ぶことが出来るよう対応をしている。ダブルスライダーとアドベンチャージムを使用した遊びを取り入れるようになってから、滑る、登る、くぐるなどの全身をダイナミックに使った動きがより盛んになっている。また、順番を待つこと、譲ったり、主張したりと社会性の育む場にもなり、遊具を通して心身の発育が見られるようになっている。

(今後の課題と展望)

心身が発達することで、よりダイナミックに、より速く滑りたいなど挑戦をする気持ちが芽生える中で、子どもの気持ちを汲みながらも、怪我の無いよう安全に楽しく遊ぶことの出来る環境作りに努めていきたい。その中で子どもたちの体力面、関係性など心身の発達を促し、成長へと繋がることを望んでいる。また、地域の方が子どもたちの遊ぶ姿を通して共有、共感し、コミュニケーションをとるきっかけとなることを期待している。

・軽量ライトマット

(ねらい)

マット活動を取り入れ、園児の支持力、跳躍力、平衡感覚などの粗大運動機能、平衡感覚などを育てると同時に体を動かすと心も動き楽しいということを知る。

(具体的な実施内容)

主にマット活動の中で使用をしている。マット活動は0歳児から取り入れる運動あそびの一つであり、コロコロと転がる、ハイハイをする、斜めにして滑るなど全身を動かす遊びを経験することが出来ている。他の年齢児でも成長に合わせたマット活動を取り入れることで乳児から幼児までマット活動を通して体も心も動かし楽しんでいる。マット活動だけでなく、跳び箱や巧技台などと組み合わせて使用するなど運動あそびの主な遊具の一つとして活用をしている。また、軽量かつクッション性が高く、持ち運びがしやすいことから、運動あそびだけでなく誕生会（乳児の転倒防止のため）や地域の親子参加行事の際に使用するなど様々な用途で使用している。

(今後の課題と展望)

マット活動は運動能力の向上に繋がる遊びではあるが、動きが大きく、全身を使うため怪我が起きる可能性も高く、保育者の指導、補助の仕方、環境設定など細やかな配慮の中で行う必要があるため、今後も研修などを通して、職員のリスクマネジメント力を向上していく必要がある。その中で、体を動かす楽しさを知り、マット活動から園児の支持力、跳躍力、平衡感覚など運動能力が向上し、就学に向け自信になることを期待しています。



・巧技台Bセット

(ねらい)

跳び箱、平均台、滑り台、はしご渡り、鉄棒など組み合わせにより、支持力、跳躍力、平衡感覚、懸垂力、スピード感覚など様々な子どもたちの身体機能を高める保育を実践できるとともに、子どもたちのチャレンジ精神や思いやり、協調性、競争心、達成感など内面の心を育てる保育にもつなげたい。

(具体的な実施内容)

運動遊びの遊具として様々な用途で使用しており、運動会では年齢児問わず、様々な競技の中で活用している。乳児クラスでは、巧技台の上り下りや段を重ねてよじ登りジャンプ、平均台渡りやはしご渡り、階段から滑り台など、幼児クラスでは、鉄棒のぶら下がりから始め、前まわりや逆上がり、跳び箱や雲梯、飛び込み前転の障害物として使用するなど子どもたちの運動能力を高める保育の実践に欠かせない運動遊具として活用している。子どもたちは運動遊びに挑戦をすることで、チャレンジ精神や達成感、また、教え合うことや一緒に頑張ることで思いやりや協調性、競争心などに繋がり、心身の成長を育むことが出来ている。

(今後の課題と展望)

子どもたち全体ではなく、一人ひとりの運動能力に見合っているか、また、どこまでチャレンジが出来るかを体と心の両面から見極めながら行う必要があるため、十分に配慮した活動にする必要がある。その中で巧技台を使用した様々な運動遊びを連続的に、継続的に行うことで、運動能力の向上、心を育てる取り組みとしても生かしていきたい。

以上